

単元名

もっとかがやけ“江田島の海”！
～ふるさとの海の自慢をひろめようプロジェクト～

#ふるさと #地域 #自然 #海の生き物 #水産業 #アクティビティ



単元の概要

身近に海が広がっている江田島に住んではいるが、江田島の海の素晴らしさを肌で感じている児童は少ない。そのため、体験活動を通し、五感全てで江田島の海のよさを感じ、自らの言葉でふるさとの海の素晴らしさを語ることができる力を身に付ける。また、現状を適切に捉え、課題とも向き合い、自分たちが地域に貢献するためにどんなことができるかを考え、行動することで、自己の生き方を見つめ、よりよい生き方を考えていくための資質・能力を育成する。

【本質的な問い】(何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」)

○ふるさとの海を未来につなぐために、今を生きる自分たちにできることは何だろうか。

【単元を貫く問い】(単元を通して考え深めていく「問い」)

○ふるさとの海の素晴らしさや課題は何だろうか。

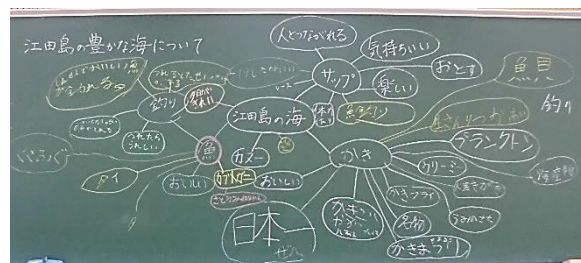
【単元の目標】

○身近な地域の自然(海)のよさやそれを守ろうとする人々の努力や工夫に気付き、学んだことを自分の生活や地域に生かそうとすることができる。

活動の様子(全30時間)

【課題設定・活動計画づくり(3時間)】

- 江田島の海について、これまで学習してきたことをもとにイメージしたことをウェブマップにまとめ、ふるさとの海の良さについて整理する。
- 「海の生き物」「水産業」「海のアクティビティ」「海の見える場所」の4つのグループに分かれ、活動計画を立てる。
- 計画を交流し、学級全体の承認を得る。



「江田島の海」の児童がイメージしたウェブマップ

【体験活動・情報収集(12時間)】

- 計画した体験を通して、江田島の海の素晴らしさや課題について実感する。
- 海に携わる方々との交流を通して、江田島の海に対する思いに触れ、見方・考え方を広げ、深める。



浜辺の清掃(左)とSUP体験の様子(右)

【情報整理・分析・新たな課題設定(5時間)】

- 「江田島の海の素晴らしさ」と「気になったところ(課題)」の2つの視点で、体験活動の振り返りを行う。
- 体験活動の振り返りを交流し、今後、どんな活動をする必要があるのかを考え、新たな課題設定を行う。
- 新たな課題を解決するための計画を立てる。

【実行(2時間)】

- 海の豊かさを守り、未来につなげるための発信を考える。
- 学校内で江田島の海の素晴らしさを知ってもらい、自分生活について振り返り、ふるさと江田島の海を守っていく意識を高める。



2年生との砂浜清掃(左)と砂浜遊び(右)

【まとめ・表現(7時間)】

- これまでの活動を振り返り、再度、情報を整理し、「誰に」「何を」「どのように」発信するか考える。
- 各グループで発表原稿を作成する。
- 全体で読み合わせ、加筆修正を行う。
- より相手に伝わりやすいよう工夫を加え、発表に向けて練習を行う。



児童が作成した江田島海新聞 さとうみフェスタでの活動報告

【振り返り(1時間)】

- これまでの学習の過程を振り返っての感想や、今後、どのようにふるさとの海と関わっていくのかをまとめ、交流する。また、今後の学習の見通しをもつと共に、今後の自分の生活をより豊かにしていこうとする。

児童生徒の変容

- 学習の振り返りで、「江田島の海の素晴らしさをたくさんの人々に味わってもらい、一緒に素晴らしい海を未来に残していきたい。」という内容を記述している児童が多くいた。
- 児童アンケートの「江田島の海の素晴らしさを実感している。」「江田島の海の自然を守るために自分ができていることをしていきたい。」の項目で、肯定的な回答をする児童の割合が増え、ふるさとの海への愛着の高まりが見られた。
- 保護者も参加する形式でさとうみ学習を仕組んだことで、学校の活動以外においても家族で魚釣りへ出かけたり、SUP をしたり、近くの浜へ遊びに行き、ごみ拾いをしたりするなど、児童が海に関わる機会が増えた。

連携機関・団体・人物

- 【SUP 体験】 kirikushi coastal village 蛇草 孝介さん
- 【カヌー体験】 ビーチ長浜 大窪 敏靖さん
- 【魚釣り体験】 魚商かぐら 川上 大輝さん
- 【ビーチコーミング】 FUDO 後藤 峻さん
- 【海辺の生き物観察】 さとうみ科学館館長 西原 直久さん
- 【水産教室】 江田島市役所 農林水産課 藤本 昇大さん
- 【海の環境カードゲーム】 プロジェクトデザイン 山口 明菜さん
サステナブル三原 安藤 真さん



魚商かぐら 川上 大輝さん

成果○と課題●

- 体験活動を仕組んだことで、児童がふるさとの海に愛着をもつと共に、実感を伴った学びにつながった。また、児童にとって「自分たちの海」という意識が高まり、自分事として課題解決に取り組めた。
- 活動を通して、様々な人と交流でき、海に対しての見方・考え方を広げ、深めることができた。
- 多くの体験活動を仕組んだが、天候に左右され、計画が延期になったり、計画通りに実施できなかったりして、その後の学習の時間にゆとりを生み出すことができなかったため、体験活動を精選し、ゆとりをもった単元計画を作成する必要がある。

題材

ふるさと江田島の海を未来に残すために
自分たちにできることを考えよう

#つかむ #さぐる #みつける #きめる #学級活動



題材の概要（学級活動（３）イ 社会参画意識の醸成や働くことの意義の理解）

総合的な学習の時間や社会科の学習と関連させ、教育過程を構成した。これまでの他教科等の学習から、児童は「素晴らしい江田島の海をたくさんの人に感じてほしい。」という思いをもっている。そこで、話し合い活動を通して、その思いを発展させ、誇れる江田島の海を未来につなぐために「自分たちができること」を考え、実行していこうとする態度を養う。

【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）

○「自然と共に生きる」とはどういうことなのだろうか。

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）

○自分にとってふるさと江田島の海は、どのような価値があるのだろうか。

【単元の目標】

○総合的な学習の時間やこれまでの経験から学んだことをもとに、江田島の海について考え、将来の生き方を描き、その実現に向けて、日常生活の向上を図ろうとする態度を養う。

活動の様子（１時間） 【関連教科等：社会科「環境を守るわたしたち」、総合的な学習の時間】

【つかむ・さぐる】

○他教科等の学習を通して学んだことや感じたことをもとに、江田島の海のよさを再確認すると共に、課題をつかむ。

○ふるさとの海を未来に残すためには、一人一人が海に関心を持ち、海を守る意識を高めていくことが必要なことを知る。

○江田島の海を未来に残していくためにできる取組を考え、自分の意見をもつ。

○取組については、「時間」「費用」なども考慮して、自分たちが実現可能かどうか、といった視点をもって考える。

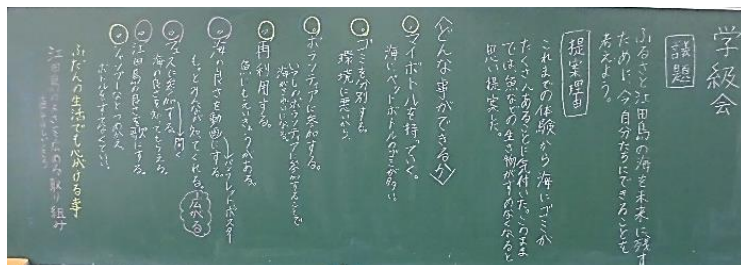
【見つける】

○自分たちが目指す江田島の海の姿に向けて、どんな取組が必要で、何ができるのかについて考えを出し合う。

[illegible]

【決める】

- 他者の意見を尊重しつつ、自分たちにとって実現可能な取組かどうかを吟味しながら話し合いを進める。
- 他者の考えや、その理由を聞くことで、自分たちができる取組への見方・考え方を広げ、よりよい取組を見い出す。
- 学校内で江田島の海の素晴らしさを知ってもらい、自分生活について振り返り、ふるさと江田島の海を守っていく意識を高める。



黒板板書



話し合い活動の様子

【振り返り】

- 話し合い活動の自分のめあてについて振り返る。
- 今後の活動や、よりよい生活を送るための見通しをもつ。
- 話し合って決定した取組から、興味のある活動を選択し、今後の総合的な学習の時間の学習で、計画を立てていくことを確認する。

「みんなの生活でも心がける事をもとにして、これから、あき時間を見つけたら、少しでも多くのゴミを見つけ、きれいにできるように心がけたい。」

「みんなに参加してもらって、イベントを開きたい。たとえば、ビーチフラッグ大会。浜をきれいにしておき、またで走りたい！ だけど、まだはだしで走れるくらいきれいじゃないから、きれいにする！」

児童が書いた振り返り

【実践】

- 話し合い活動で決定した取組は、総合的な学習の時間の学習においてグループに分かれ計画を立て、実践していく。
- 学校の授業だけでなく、日常生活においても話し合ったことを意識して過ごすようにする。

児童生徒の変容

- 取組を出し合ったことで、江田島の海を豊かなまま残すために、砂浜のごみ拾いボランティア活動や、海の自然を感じられるイベントを企画して、江田島の海の現状や素晴らしさを感じてもらおうとするなど、主体的に行動しようとする意識が高まった。
- 学級全体が、目指すべき海の姿や、取組の目的を共有することで、他者と協働して目標を達成しようとする意識が高まった。
- 放課後など、プライベートな時間に学校の近くの浜へ行き、落ちているごみを拾い集める活動を行うなど、話し合った取組を実践し、地域社会に貢献する姿が見られた。

成果○と課題●

- 話し合い活動の題材をこれまでの学習（さとうみ学習）と関連させたことで、自分事として課題を捉え、真剣に考えることができた。
- 一人一人が意見を持ち、話し合う場を設定したことで、課題に対しての解決方法をより深め、多様な取組を見い出すことができた。
- 次年度も、さとうみ学習を推進していくために、各教科等の関連や体験活動等を効果的に実施するカリキュラムマネジメントを行う必要がある。

単元名

環境を守るわたしたち

自己の学習スタイル # 学習計画 # 他地域から学ぶ # 調べ学習



単元の概要

本単元では、京都市を流れる鴨川に関する資料を基に、水質の悪化等の課題(問題)、その課題を解決する取組、現状と今後の生活についてまとめる。また、産業の発展、生活様式の変化や都市化の進展により、公害が発生して健康や生活環境が脅かされてきたこと、多くの人々の努力や協力により公害の防止や生活環境の改善が図られてきたことを理解する。さらには、児童一人一人が、森林、川、海などのテーマを決めて、インターネットや図書等を使い、課題や問題について調べ、交流する。これらのことを通して、国土に対する愛情や産業の発展を願い、将来を担う国民としての自覚を養う。

【本質的な問い】(何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」)

○多種多様な生物が共存する地球で、共生するためには、どうすればよいのだろうか。

【単元を貫く問い】(単元を通して考え深めていく「問い」)

○自然環境や健康な生活を守るために私たちにできることは何だろうか。

【単元の目標】

○身の回りの生活環境や公害に関心を持ち、生活環境の改善や公害の防止などの取組や、関係機関や地域の人々の努力について理解し、環境汚染から健康や生活環境を守るために自分たちにできる取組や協力していくことについて考えることができる。

活動の様子(全6時間)

【課題設定・活動計画づくり(1時間)】

- 本単元での学習内容や、キーワードについて全体で確認する。
- 確認した内容をもとに学習計画を作成する。
- 学習計画を交流し、自己の学習スタイルについて見通しをもつ。

【情報収集、情報の整理・分析(4時間)】

- 学習スタイル(個人、ペア、グループ)、情報の収集方法については、自己選択し、学習を進める。
- 鴨川の課題、取組や公害について、教科書、資料集等を活用し、ノートにまとめ、整理する。

⑩ 学習計画を立てよう。
(全6時間)

時間	学習課題	調べ方
1	学習計画を作る	全体、個人
2	川について知る	教科書、資料集、インターネット
3	海の現状	こ
4	取組	こ
5	自分で知る	こ
6	交流	個人、全体

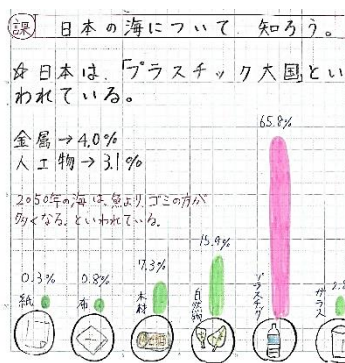
児童の学習計画

○自分のテーマを決め、インターネット、図書等を活用し、環境の課題、課題解決のための取組について情報を収集する。

○必要に応じて友達と交流し、情報を共有し、自分の考えを深める。



児童の学習の様子



海洋ごみの7~8割は街から
街で捨てられたゴミが水路や川
に流れ出し、やがて海へとたどり
着く。

海ゴミを減らすために私たちができること
プラスチックゴミを減らすための
行動

- ・マイバッグを持参し、レジぶくろは、もらわない。
- ・マイボトルを持ち歩き、プラスチックのカップを減らす。
- ・マイはしを持ち歩き、プラスチックのスプーンやフォークを減らす。
- ・プラスチック製のストローの使用を抑える。
- ・スーパーなどで食品を小分けにするポリぶくろの使用を減らす。

〈世界中の環境取組〉

世界中でレジぶくろや使い捨てプラスチックを規制
し、かけもちのレジぶくろに
イタリアの海岸に打ち上げられた
クジラの骨から回収されたレジぶくろ
が見つかるといいます。

③ 自分も海をよごさないため
に、マイバッグ、マイボトルな
ど、持っていて、ボランティア
にも参加していきたい。

海をテーマにして学習を進めた児童のノート

【まとめ・表現、振り返り(1時間)】

○調べたこと(選択したテーマについての課題、取組、今後について)について、グループで交流する。

○グループで交流した内容について、全体で確認すればよいものを推薦し、発表する。

○自分が調べたこと、グループや全体で交流したことなどをもとに、環境を守るためには何をしていけばよいかを考え、学習の振り返りをする。



グループ交流の様子



全体での発表の様子

(自分の思い) (振り返り)

私は、海に多いペットボトルな
どを減らすために、マイボトルを持参し、少し
でも多くのゴミを減らせたかと思
います。でもこれだけでゴミが減
らせないのど海にゴミを拾いきれ
ないし、未来に残していきたく
いいます。

児童の振り返り

児童生徒の変容

○自然環境について調べる題材を児童一人一人が決め、交流したことで、多様な意見に触れることができ、自然に対する見方が広がった。また、学習に主体的に取り組む姿が見られた。

○振り返りに「プラスチックゴミを少しでも減らすためにマイバッグを使いたい。」「森林を守ることが、自然災害の被害を少なくすることが分かったので、植物を大切にしたい。」「といった記述があり、自分の生活を改善していこうとする姿が見られた。

成果○と課題●

○総合的な学習の時間と関連させた授業を展開したことで、特に海について調べた児童にとっては、課題、取組、今後の生活の仕方についてイメージしやすく、より学習を深めることができた。

○自分の調べるテーマを自己選択させたことで、児童の意欲の持続、主体性の向上を図ることができた。

●学習計画を立てた後は、児童の主体性に任せた授業構成のため、何に注目すればよいか分かりにくく、学習の目標を達成できていない児童や学習の深まりが十分でない児童も見られたため、より個に応じた授業展開や、手立ての工夫がより一層必要である。